

# 加西市公共交通活性化総合事業(北条鉄道活性化事業)

事業期間  
21~23年度

過度にクルマに依存した交通体系となってしまった加西市において、クルマを気軽に利用できない(移動に困っている)人の移動を公共交通で確保することで市内・市外の移動の自由度を高め、活発な交流に基づく中心市街地の活性化を目的とした鉄道の利用促進や施設整備、バスの再編を推進します。

## 【加西市公共交通活性化協議会】

近畿運輸局、兵庫県、加西警察、兵庫県バス協会、兵庫県タクシー協会、神姫バス、北条鉄道、加西市  
区長会、加西市老人クラブ連合会、加西商工会議所、  
加西北条都市開発、NPO原始人の会、加西市

## 事業の概要(22年度)

### ①企画乗車券の企画販売 186千円

全駅入場券セット、常備乗車券、車内補充券等、北条鉄道でないと購入できない企画乗車券や入場券を製作し、鉄道愛好者を中心に遠方からの利用客促進につなげる。



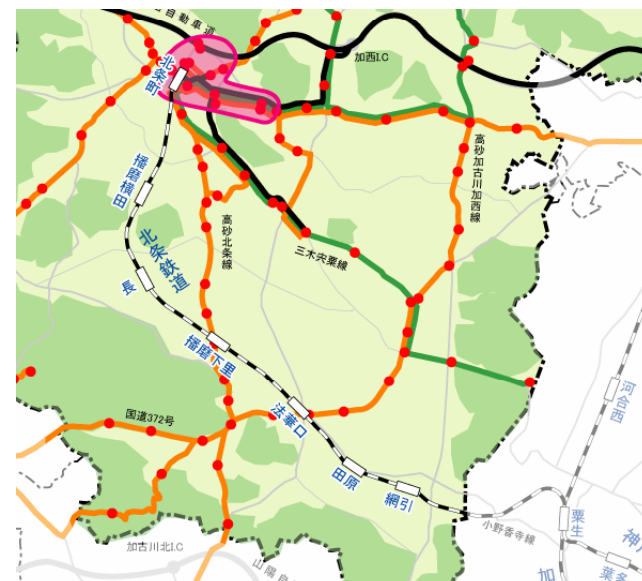
### ②サル駅長の制服製作 19千円

子ザルを北条町駅の駅長に就任させるにあたり、駅長服を着用させて、北条鉄道のPRと利用促進を推進する。



### ③ホームページのリニューアル 381千円

これまで内製であったホームページを専門業者に依頼し、より見やすく利用しやすいサイトに作り替える。



北条町駅



播磨横田駅



長駅



播磨下里駅



粟生駅



網引駅



田原駅



法華口駅

22年度  
導入への  
プロセス

北条鉄道の乗車人員は、年間30万人前後でほぼ横ばい状態が約20年間続いている。乗車人員の内訳は、通勤定期の割合が年々減少する反面、通学定期の割合が増加しており、平成19年(2007年)においては、北条鉄道乗車人員の半数以上(51%)を通学定期が占めている。しかし、今後は少子化による影響で通学定期も減少が予想されるため、定期外利用者の増も大きな課題となっている。

近年の鉄道ブームによって、北条鉄道にも多くの鉄道愛好家が写真撮影、記念切符購入等で北条鉄道に乗車しており、継続して企画乗車券を発売していくことで、遠方からの利用者増が期待できる。

加西市のまちづくりの中心的役割を担っている北条鉄道に市民が親しみと誇りを持てるような宣伝を推進する。

22年度  
事業の  
効果

定期外利用客の増加

企画乗車券やサル駅長、他にも北条鉄道まつりやH-1グランプリ等のイベントによるPR効果が影響して、定期外利用者数は前年比6%増の9.9万人となった。

関連事業との相乗効果

ホームページをリニューアルしたことで、サイトが利用しやすくなり、より多くの方にサイトを経由した情報発信が可能となった。また、鉄道関連グッズや加西市の特産品をネット販売することで、より北条鉄道と加西市に愛着を持っていただく契機となっている。

次年度  
以降

利用者の利便性向上を図るとともに、情報発信力を高めることにより利用者数の増を図る。

網引駅は兵庫県が整備するサイクリングロードが交差しており、その拠点として役割を持たせるため、駅前整備を推進するとともに、駅施設の整備も合わせて行う。トイレを建て替えて水洗化するとともに自転車利用者と連携できる仕組みを構築する。

より多くの沿線住民、観光客等に利用してもらうため、パンフレットやWEBシステムの充実を図る。

常に話題を提供できるようH-1グランプリ等、イベントの充実を図る。